

プログラム参加報告

自分が、今回のTOFUプロジェクトで思ったことや感じたことは、やはり沖縄は基地があり、アメリカが後ろ盾としてついているからこそ、今沖縄県民が、平和に暮らしていると思いません。具体的には、第9条に戦争放棄、戦力不保持、交戦権の否認を規定されている日本国では、万が一沖縄や日本本土で侵略や紛争が起こった場合には、米軍の部隊が米本土から駆けつけるのに比べ、より早く現地で部隊を展開できることは心強い存在なのではないかと思いました。

しかしその一方で、騒音問題の他に暴行問題、落下物事故、環境汚染問題など多々課題があることも事実です。そこで僕は、もっと米軍関係者やその家族と地域住民との交流ができる機会を増やし、相互に理解を深めることが重要なのではないかと思いました。

そして何より、このプログラムで相互に良い関係を築くためには敵対感情ではなく協力しあう行動が必要だと自分は考えさせられました。



ほりかわ いおり
堀川 奄慶さん

私は、日米双方の視点から「沖縄の将来」について深く考えたいという思いから、TOFUプログラムに参加しました。プログラムでは、日本や世界の最前線で活躍されている方々との意見交換を通じて、貴重な経験を得るとともに、多くの気づきと学びを得ることができました。

日米同盟の意義と重要性を改めて認識すると同時に、日米間の住民同士に生じる摩擦をいかに緩和していくかについて、仲間たちと真剣に議論を重ねました。その中で私は、「日米間の摩擦の多くは、対話不足による相互理解の欠如から生じている」ということを強く実感しました。

現在は、この課題の改善を目指し、プログラムで出会った仲間たちと共に、若者向けの交流プログラムの実施に向けて取り組んでいます。

将来的には、こうした交流プログラムを継続的に実施し、日米双方が互いの考えを理解し合える沖縄をつくることを目指して取り組んでいきたいと考えています。



ちやた はやと
茶谷 颯人さん

今回、TOFUプログラムに参加し、東京およびアメリカにて外交に関わる方々との意見交換や現地視察を通して、日米同盟の多面的な意義や、アメリカまたは国際社会から見た沖縄と在沖米軍基地の役割と立場、アメリカ・世界の歴史や流れ、日本とは違う捉え方や考え方を知ることが出来ました。この経験から「外交」は、相手の歴史や状況などの相手国への理解が必要であり、そして相互理解が大切であるということを実感しました。特に、やはり日米同盟は重要であること、そして「米国人、日本人、沖縄の人の米軍に対する意識、認識の違いがある」のが課題だと感じました。参加者の私たちにできることは、在沖米軍基地に対する捉え方の差を埋めるために米軍の地域活動などの接点を増やすサポートをし、国際交流を行ってよりよい同盟関係を築いていくことが目標です。

本プログラムは、表敬先の方々や現地で交流した学生から多くの新しい学びを得ただけでなく、尊敬する参加者との関わりや意見交換を通して、自分自身を大きく変える素敵な経験となりました。



しもじ みう
下地 未羽さん

私は、身近な存在である基地の背景を知り、日米両政府がどのように捉えているのかを学ぶためにTOFUプログラムに参加しました。このプログラムを通じて、私は視野を広げることの重要性を痛感しました。これまで基地問題を沖縄県民の立場から考えることはあっても、外からの視点で見たことはありませんでした。しかし、東京・アメリカでの研修を通じて、それぞれの立場の想いを直接聞き、基地に対する考え方を知りました。特に、日米両政府が軍事的な観点から基地の重要性を強調するのに対し、沖縄県民は日常生活で基地の存在を身近な問題として感じていることが、すれ違ひの大きな要因になっていると感じました。研修中、このような複雑な問題に対して自分ができることは何かを考え続けました。国家レベルの課題を個人の行動に移すのは容易ではありませんが、たとえ小さな取り組みでも継続することが重要だと気づきました。そのため、私は県民の基地に対する理解を深めるとともに、米兵との交流の場を広げること、お互いの認識のギャップを少しでも埋める努力をしたいと考えています。英語は得意ではありませんでしたが、思い切って参加したことで、多くの貴重な経験を得られました。訪れた場所や出会った人々すべてが学びの機会となり、充実した一週間でした。この素晴らしいプログラムを多くの人に体験してほしいと思います。



なかんだかり けんと
仲村 健人さん



第7回 アメリカで沖縄の未来を考える (TOFU) プログラム 参加報告

TOFUプログラムで 学ぶ沖縄の未来

外務省による海外派遣プログラム（TOFUプログラム※）が、令和7年3月19日～26日に実施されました。第7回目となる今回、本市からは市内在住の高校生・大学生4名が参加し、ワシントンDC、ニューヨークを訪れ、日米関係に携わる実務家やその他国際社会で活躍する有識者への面会、各種機関の視察等から得た日米関係に対する現場ならではの認識に基づき、沖縄その他社会の思索を深める貴重な契機となりました。

※TOFUプログラムとは

「アメリカで沖縄の未来を考える (TOFU: Think of Okinawa's Future in the US)」プログラムの略称。沖縄の将来を担う高校生・大学生を米国に派遣し、米国政府関係者との意見交換や米国の代表的な歴史・文化施設等の視察を通じ、語学としての英語力向上を図るとともに、英語を用いて様々な分野について学ぶ教育機会を提供するとともに、よりグローバルな視点を深めるということで、国際社会で活躍する沖縄の人材育成を行うことを目的としています。

プログラム日程(主な訪問場所)

- 3/19(東京)
 - ・官邸・外務省
- 3/20(ワシントンDC)
 - ・米国議会
 - ・米国防務省
- 3/21
 - ・日本大使館
- 3/22
 - ・アーリントン国立墓地
 - ・ジョージタウン大学
- 3/23(ニューヨーク)
 - ・ニューヨーク視察
- 3/24
 - ・ジャパン・ソサエティー
 - ・在ニューヨーク
 - ・日本国総領事館
 - ・国際連合日本政府代表部
 - ・国連
- 3/25・26
 - ・帰国

〈写真①～⑦について〉

- ① 米国議会訪問
- ② 米国人学生等との交流
- ③ 日本大使館訪問
- ④ ジョージタウン大学訪問
- ⑤ 国務省訪問
- ⑥ 国連ツアー
- ⑦ アーリントン国立墓地訪問